

会議録

会議名	平成30年度第3回小金井市青少年問題協議会専門委員会		
事務局（担当課）	児童青少年課		
開催日時	平成31年1月17日（木）午前10時00分～午前11時56分		
開催場所	小金井市役所 第二庁舎 第801会議室		
出席者	委員	高橋専門委員長、木下副委員長、黒須委員、大澤委員、櫻井委員、古源委員、羽田委員	
	その他	欠席：佐野委員、倉持委員、小山委員、田原委員	
	事務局	鈴木児童青少年課長、田中児童青少年係長	
傍聴の可否	可	傍聴者数	なし
会議次第	1 開 会 2 議 題 (1) アンケート結果を受けた啓発用リーフレットについて (2) その他 3 閉 会		
提出資料	1 アンケート結果一式 ※ 第2回専門委員会 配布済み資料 2 同 追加作成資料 ※ 12/3 送付 3 リーフレット案（事務局たたき台） ※ 12/17送付		
会議結果	<p>前回の協議内容で作成されたリーフレット案を元に、内容を再度精査し、選択データの一部入れ替え、コメント欄やレイアウト等の詳細について協議を行った。本日の議論を反映したメッセージを含めた最終校正は専門委員長一任とし、原案を2月中に作成、専門委員確認のうえで、3月末の本体会議で専門委員長から全体に報告を行うこととした。</p>		
鈴木児童青少年課長	<p>定刻となりましたので、始めさせていただきます。</p> <p>新年明けましておめでとうございます。本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。委員の皆様におかれましては、旧年中からも、青少年問題協議会のほうで大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>本日の議題は、アンケート結果を受けた啓発リーフレットについてということでご協議いただくことになっておりますので、よろしくお願ひします。</p>		

田中児童青少年係長	<p>おはようございます。事務局からご連絡をさせていただきます。</p> <p>本日、小山委員、田原委員、佐野委員、倉持委員はご欠席でございます。また、会議に入ります前に資料の確認をさせていただきます。</p> <p>机上配付資料ですが、本日の次第1部、それと傍聴感想メモが1部でございます。また、事前送付資料といたしまして、アンケート集計結果の追加資料及びリーフレット事務局案たたき台を昨年12月にお送りし、お目通しをお願いしてございます。資料のご不足等ございましたら、事務局までお申し出ください。</p> <p>なお、傍聴感想メモでございますが、傍聴人の方からお帰りの際に感想をメモしていただきまして、委員の皆様に参加として次回の会議までにお配りすることで、次回の会議の進行に生かす目的としております。児童青少年課で所管している児童館運営審議会や青少年問題協議会の本体会議では準備をしてございましたが、本専門委員会は本体会議の作業部会という位置づけですので何かを最終決定するということがないため、今まで特に用意しておりませんでした。前回の専門委員会終了後、傍聴人の方から委員の皆様感想等を出したいが何かないかというようなお話があったものですから、もし委員の皆様で特に問題ないようでしたら、本日の会議から傍聴席に用紙をセットさせていただければ、と思っております。こちらにつきましては、ご検討いただければと思っております。以上でございます。</p>
高橋委員長	<p>皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。座らせていただきます。</p> <p>本日の専門委員会ですが、ただいま事務局から説明があったような内容で進めさせていただきます。</p> <p>まず初めに、資料のほうは、皆さん、よろしいでしょうか。そろっていますか。</p> <p>それから、傍聴感想メモについての話がありました。これについて、いかがでしょうか。委員の皆さんの参考にとということですので、よろしいですか。ありがとうございます。事務局のほうで用紙を傍聴席に設置させていただきます。よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、平成30年度第3回小金井市青少年問題協議会専門委員会を始めます。</p>

本日は、議題のとおりアンケート結果を受けた啓発リーフレットについての検討を行い、3月27日に行われる青少年問題協議会、本場で報告する原案を専門委員会として完成させるということになりますので、よろしくお願いいたします。

早速ですが、リーフレットのたたき台案をごらんいただいて、ご感想や数字の示し方、また、表記、啓発すべき方向性、また、文章の内容等について、ご感想なども含めてですが、具体的なメッセージ欄、空欄もありました。その辺りも含めご意見をいただければというふうに思っております。

なお、事務局のほうでは、たたき台、資料を作成していただきありがとうございました。感謝申し上げます。この資料につきましては、小金井市の小・中学校校長会でも各校の校長先生方にお示しして、ご意見等をいただくという流れで進めてまいりました。

それでは、早速、このたたき台について協議をしていきたいと思えます。項目ごとにたくさんありますので、整理をして、皆さんで意見交換をしていきたいと思えます。

まず、私からの提案ですが、A4の見開き1ページをページごとに、それぞれご感想や今後の方向性、修正内容など、協議していただいて、4枚分、順番に協議をしていきたいと思えます。その後、全体を通して協議をするという形で進めていきたいと思えますが、よろしいでしょうか。はい、では、その流れで。

最初に見開きで言うと「みんなで話そう 子どもの居場所！」というところと、それから、隣は最後のページについて、皆さん、お一人お一人ご意見をいただきたいと思います。では、まず初めに私から発言をさせていただきます。

まず、今後の方向性を書く、ここの部分についてですが、これは後で私のほうで、皆さんのご意見のまとめをさせていただく欄になります。ですが、ここに何を書くのか、すごく悩んでいるところです。自分の中でイメージとして浮かんできたところは、今回、子どもの居場所ということをご皆さんで考えてきましたので、私たちがなぜ子どもの居場所に着目をしたのかということ、ここの中で示さなきゃいけない。それを受けて、調査内容が出てくるんですが、調査内容を受けて、

<p>木下委員</p>	<p>今後の方向性というものを、私たちの委員会で考えを示す必要があるのかな、ということを考えています。その2つの項目については入れたほうがいいのと思っているんですが、また、この後、協議をする中で、それ以外にも、こういうものも入れたほうがいいというご意見があれば非常にありがたいので、よろしくお願ひします。</p> <p>もう一つは、困ったときの相談窓口、相談連絡先を入れたほうがいいというようなお話があったと思うんですが、今回、全体を通して、そこがなかったので、もし入れるんだったら最後のページなのかと思っています。皆さんでそれぞれ協議していくんですが、ページを進めて見ていくと、困ったときの相談、どこに相談したらいいんだろうとか、そういうところが出てきて、そうなったときに、相談窓口の連絡先が1つでも、2つでもあれば、それで救われる大人の方、また子どもがいるのではないのかと思ひましたので、この場で話をさせていただきました。私はこの見開きについては以上です。</p> <p>それでは、木下委員から続いていただけますか。</p> <p>おはようございます。前回の委員の意見を反映していただいて、事務局のほうで原案をつくっていただきまして、ほんとうにありがとうございました。</p> <p>まず、今、委員長から1ページ目ということでしたので、感想、気づいたことを含めて、「子どもの居場所！」ということで、一番最初に「家族と一日でどれくらい会話していますか？」という数字が入ってきていいのかどうか。どこで過ごしているのかというのが、まず一番最初に、このテーマに沿って考えると、そこが出てきてからの流れになるほうがよいのかなと思ひました。題名が「子どもの居場所!」、「家族と一日でどれくらい会話していますか？」じゃなく、「どこで過ごしていますか」と来て、その次に、「誰と過ごしているか」、「どのくらい話をしているか」というような流れのほうが何となくいいのではないかなというふうに思っただころが、まず一つ目です。</p> <p>それから、細かいところでは、アンケート調査方法の対象のところ、「小学校2校」の後に「小4～小6」と括弧をつけたほうがいいですし、各学年1学級ずつというふうに、「各学年」と入れたほうがよかったですのかなというふうにも思ひました。</p>
-------------	---

<p>高橋委員長</p>	<p>最終ページについては、『子どもの居場所』について考えてみませんか？」ということで、大きくは、学校、保護者、地域がともに手を携えて、子どもの居場所について考えてみましょうと、育てていきましょう、という内容が入ってくるといいのかな、というふうに思いました。以上です。</p>
<p>古源委員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、古源委員、お願いします。</p> <p>おはようございます。本年もよろしくお願いいたします。</p> <p>最初のページと最終ページということで、まず、最初のページ、ちょっと木下先生と私、意見が違うんですけども、「子どもの居場所！」ということで、なぜ「どれくらい会話していますか？」というのが一番に来たかという説明が、この中段以降の『子どもの居場所』と聞いて何を連想しますか？」という説明なのかなと思いました。</p> <p>これがもしも頭に来ていて、『子どもの居場所』と聞いて、どうお考えになりますか」と来たら、「一日どれくらい、ご家族と子どもが触れ合っていますか」というデータが来てもいいのかなというふうに思いました。</p> <p>『子どもの居場所』と聞いて何を連想しますか？」の文章の中で、私はあまり深く理解できなかつたんですけども、この文章の中の2行目の「同時に、ネットで、SNSで話しをきいてもらう、悩みを相談するといった、物理的な面だけではない『心の居場所』というふうに書いてある。実際問題としての子どもの居場所と、それからネット上の居場所という、この2つしかないのかなというのが、ちょっとこの表現の中で、そういうふうに受け取っていいのかわからなかつたんですね。というのは、具体的にどこではないけれども、誰かと話をする空間というところプラス、ネットを利用した心の居場所、その2つがあって、さらに物理的な居場所というのがあるんじゃないですか、という問いかけであれば、何となく、ちょっとすっと落ちるのかなという気がしながら読んでいました。</p> <p>それと、このグラフの表示の仕方ですけども、円グラフの中で、いろんな表記の仕方があって、パーセンテージが入っているもの、入っていないもの、それから「～」がついているもの、ついていないもの</p>

があるので、私としては、「10分未満7%」という書き方で、みんな統一していただいたらいいのかなと思っていて、「1時間～」というんじゃないくて、「1時間以上」としていただいたほうが、1時間以上話している人というイメージが強く出てくるのかなと思いましたので、スペースの関係とかで、こういう表示になったのかもしれないですけども、そこを少し検討していただきたいなと思いました。

それから、最終ページは、まだ、先生のご意見を含めての、いろんな話についての今後の方針だと思うんですけども、この大きい枠の中に書いてある「小金井市では」というところは、一番下の子どもの権利に関する条例の説明がそのまま持ってこられているので、同じ表記が2回になるのは、スペースがもったいないので、もしもこの部分を上に持ってくるのであれば、子どもの権利に関するリンク集に関しての説明のところは外されたらいいのかなというふうに思いました。

今後の方向については、子どもの物理的な居場所、それから「心の居場所」について、みんなで検討していきましょうということもそうですけれども、このアンケートを通じて私が思ったのは、子どもにとっての放課後の時間というのは、今、少し細切れの時間になっちゃっていて、主体的に放課後を過ごすというよりも、何となく時間を潰している感じなのかなという印象をちょっと受けたんですね。それは小学生でも授業時間が増えていて、放課後と呼べるような時間が少なくなっていたりとか、部活があったり、お稽古事があったり、スポーツ教室があったり、ほんとうに自分が主体的に自分で放課後として過ごしている時間が少ないのかなと思ったときに、子どもたちが時間の使い方を意識できるような、何かそんなことも少し大人のほうからの反応があってもいいのかなと思いました。以上です。

時間の使い方ということですよ、子どもの。

はい。

ありがとうございました。時間がないので、事務局のほうに確認できるものは、その都度、確認していいですか。では、先ほどの円グラフの表記のところはいかがでしょう。何かスペース上の問題があって統一できないとか。

「～」というところであれば、大丈夫です。

高橋委員長

古源委員

高橋委員長

田中児童青

少年係長 高橋委員長	<p>わかりました。グラフの表記については、修正可能だということですね。では、続きまして、羽田委員、よろしくお願いします。</p>
羽田委員	<p>羽田です。よろしくお願いします。</p> <p>私は最初の面に、子どもとどれだけ話ししていますかという問いかけはすごくいいと思っています。子どもが昼間、どこで過ごすかということは、なかなか親のほうでのコントロールができません。その点、子どもと話すということは、親の努力によってどうにでもなっていくのだと思いますので、一番手が届くもの、親の努力が可能なものが最初に来て、興味を引いてもらうということがいいのかな、というふうに思いました。</p> <p>それから、ネット・SNS等の利用に関して、ですけれども、今まで気づかなかったんですが、やはり最近のネット・SNSというのは、もはやアルコールだとか、薬物だとか、買い物だとか、何々依存と同じものだという位置づけが、そういうような形になっているご時世です。もはや依存症という病気にもなり得るんですよというような、ちょっと衝撃的かもしれないけれども、そういう表記があってもいいのかなというのは感じました。あとは、非常にシンプルで見やすく、私は基本的にはこの記載、いいなと思って眺めていました。</p>
高橋委員長	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>櫻井委員、お願いできますか。</p>
櫻井委員	<p>皆さんがもうお話ししたんですが、「心の居場所」という点にもう少し着目する必要があるんじゃないかな、と思います。今の数字で見ますと、子どもと保護者は、時間などは大体一致していますのでいいのですが、「心の居場所」という面で、もう少し細かく考える必要があるのではないかなと思います。以上です。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございます。「心の居場所」ですね。</p> <p>大澤委員、お願いします。</p>
大澤委員	<p>大澤です。よろしくお願いいたします。</p> <p>先ほどの、最初に「家族と一日でどれくらい会話していますか？」というのが来るのはどうかという木下委員の意見があったんですけれ</p>

高橋委員長
黒須委員

ども、次の後ろのページで、放課後のことが一面に書いてあるので、そういう意味では、これは全部一緒になっているほうが見やすいのかなというのがありますので、この場所でいいのではと思います。先ほど羽田委員もおっしゃっていただいたように、インパクトとして、結構うちって子どもと会話をしていないんだというふうに思っただけけるという意味でも、こちらにあっていいじゃないかなと思いました。「物理的な面だけではない『心の居場所』』という言葉が、何かすごく、ずきっとくる感じで、この表現を使っただいてありがとうございますというところがありました。以上です。

ありがとうございました。黒須委員、お願いします。

私もこれを、最初に持ってきたのはすごくいいじゃないと、この質問で思ったんですけども、木下委員のおっしゃるように、そういう考えもあるか、とちょっと思ったりしたんですけども、それでも、やっぱりこれでいいんじゃないというふうに思いました。

あと、「『子どもの居場所』と聞いて何を連想しますか？」という、ここの表現、ちょっとまだ問題があるかもしれないけれども、趣旨はすごくいいなと思いました。

あと、セリフというか、雲の中の、どの学年でも、10人に1ないし3人のと、こういうときは、普通の会話では、10人中1ないし3という言い方をするな、と思って。でも、次の括弧の中に「一日の中で」と、「中」が2つ続くからかなとちょっと思ったりもしたんですけども、でも「中」というほうがいいかなと思いました。

それから、左のページですけれども、私は今回のこのアンケート、もう一回全部見ながら思ったのは、自分の中ですごく印象に残ったのは、やっぱり子どもの居場所も大事だけど、携帯、スマホ、ネットゲームにすごく興味を持って見えたので、ここに最後にまとめるときに、「『子どもの居場所』と携帯、スマホ、ネットゲームについて考えてみませんか？」とか、何かそういう感じで最後をまとめたらいいのかなと思いました。

それから、このアンケートの結果から、すごく自分が思ったのは、朝食や夕食を一人で食べていたり、3時間以上もゲームに使っている、多くの時間を費やしている子もいるという現実、今の中でもこんなに

いるんだというふうに思ったので、その辺を親子で考えてほしいなという思いがありました。

最終的なまとめ方として、自分としては親子で時間を共有できるのは、中学生になるくらいまでで、もう部活が始まっちゃうと、ほんとうに親子の会話はどんどん減っていっちゃう。部活をやっていない子だと高校生くらいまでは話せるかな。でも、大学生とかになると、ほとんど親子で話す時間、ゆとりというか、そういう時間は持てなくなっちゃうので、今、親子でかかわれる時間をすごく大事にしてほしいという思いで、ここをまとめたらどうかな、と思いました。

あと、バーコードリーダーで子どもの権利に関する条例も全部見える、というふうにしたらどうかなと思って、私は自分の名前が、この青少年問題協議会のバーコードリーダーでも出てくるのはちょっとと思ったんですけども、条例のほうもちゃんと見られるようにしたら、みんなももっと条例について考えてくれたり、子どもたちも、こんなことが決まっているのに、自分たちはどこに訴えればいいんだみたいな、何かそういうことも考えてもらったりとか、窓口というか、そういうことにつながっていくんじゃないかなと思いました。以上です。

ありがとうございました。

今、皆さんの話を聞きまして、ここで確認できることは確認していきたいなと思います。最初に木下委員からご提案がありました「みんなでお話そう 子どもの居場所！」で、いきなり「会話」が来ているのはどうなのかというご意見もありましたが、全体的にはインパクトを与えるということで、この順番でよろしいですかね。

あと、先ほど古源委員が言いました「子どもの居場所」について何を連想しますかという、表の下に「連想しますか？」という文言がありますが、これを先に持ってきたほうが良いという話でしたっけ、先ほどは、表の上に。

インパクトという意味では、データが来てもいいのかなと思うんですけども、確かに木下委員がおっしゃったみたいに、「居場所」と言っているのに、いきなり会話の時間と出てくるのに、そこにこの説明があると、どなたか、ぴたっときますとおっしゃっていたので、それでいいのかなと。

高橋委員長

古源委員

高橋委員長	<p>どうですか、皆さん、この点は。説明が上に来ていて、表がどんと来る。</p>
黒須委員	<p>文字は苦手な人が多い。私もいきなり文字だと、もう読む気がしないので、順番は確かにそうだなと思いますけれども、見てもらうという点では、これでいいのかなと思います。</p>
高橋委員長	<p>よろしいですか。表の下にありますので、表でつかんで「子どもの居場所！」と、文字で導入すると。わかりました。そこはいいですね。</p> <p>あと、先ほど羽田委員からありました、ネット依存のことについても文言で入れたほうがいいんじゃないかと、「心の居場所」のところ、これについてはいかがでしょうか。ネットについては、また次の別のところでかなり詳しく、ネットだけで1ページあるんですよ。だから、私、ちょっと思ったんですが、そこに入れるのはどうかなというふうに思ったんですが、いかがですか、羽田委員。</p>
羽田委員	<p>はい。</p>
高橋委員長	<p>確かに依存症も含め重大なことなんだということなので、問題意識を持ってもらうために、ネットのところに入れられたら入れていくというような形でいきたいと思います。</p> <p>あと、先ほどありました、「『子どもの居場所』と聞いて何を連想しますか？」の文言のところ、物理的な面ではない「心の居場所」、これ、皆さん、結構、着目されたところですが、ここはどうでしょうか。古源委員からは、もう少し表現を変えたほうがいいんじゃないかというご意見もありました。</p>
古源委員	<p>これを読んだだけだと、物理的ではない「心の居場所」がネットだけみたいになっちゃうような受け取り方、私はしてしまうので、その辺が何かもう少しお願いできたらなと思います。</p>
高橋委員長	<p>どうですか。ここについては、今の古源委員のご意見も反映するような形でいったほうがよろしいですか。私もちょっとそういうふうに思いまして、今、話を聞いていて。そこはちょっと修正をするということできたいと思います。</p> <p>あと、これは表記の部分になるんですが、木下委員からありました、アンケート調査方法のところの書き方についてはどうでしょう。それは修正するという事です。はい。</p>

	<p>それでは左側のページです。</p> <p>『子どもの居場所』について考えてみませんか？」というところに何を入れるか、学校、家庭、保護者、地域とともに手を携えてという、木下委員のお話がありましたし、携帯、ネット、スマホについて考えたほうがいいのではないかというご意見もあったり、放課後の時間の過ごし方、あと、先ほど黒須委員からもありましたけれども、親子で話すことを考えたら、なんていうこともありました。3つ、4つのご意見をいただきましたので、そういうことを加味した内容でよろしいですか。そういう方向性でつくっていくということでもよろしいでしょうか。ここままで、漏れているところがあったら言ってください。</p> <p>コメントの部分、「どの学年でも」と、さっき出ていたと思いますけれども、皆さん、1時間ぐらいしゃべっているのが60%ぐらいじゃないですか。これを多いと判断しているのか、少ないと判断しているのか。このコメントの中身で大分変わってくると思うんですけれども、家で1時間話すということは結構な量だと思うんです。それを6割の子どもたちが、特に中学生なら部活や塾もありますし、ここは「話していないと思っています」というコメントなんですけれども、どう捉えて、どういうふうな表記をするかで、またちょっと変わってくる。それと、右側の学年別グラフの小学校4年生の子どもたちの数字が何を意味しているのか。このグラフを入れることによって、何で4年生はこんなに話をしていないの、というふうに問いかけて、こちらも答えられない。その場合に載せる必要があるのかどうか。中3になると一致してくるのは、進路の話とか、いろんなことを相談しなきゃいけなくなってくるので、多分こういうふうな感じになってくる。多分、右肩上がりになるのが普通のグラフのような気がするんですけれども、小4だけがちょっと説明できない。このグラフを、どうなのかなというふうに思ったんです。その2つがちょっと気になったんです。</p>
木下委員	<p>コメントの部分、「どの学年でも」と、さっき出ていたと思いますけれども、皆さん、1時間ぐらいしゃべっているのが60%ぐらいじゃないですか。これを多いと判断しているのか、少ないと判断しているのか。このコメントの中身で大分変わってくると思うんですけれども、家で1時間話すということは結構な量だと思うんです。それを6割の子どもたちが、特に中学生なら部活や塾もありますし、ここは「話していないと思っています」というコメントなんですけれども、どう捉えて、どういうふうな表記をするかで、またちょっと変わってくる。それと、右側の学年別グラフの小学校4年生の子どもたちの数字が何を意味しているのか。このグラフを入れることによって、何で4年生はこんなに話をしていないの、というふうに問いかけて、こちらも答えられない。その場合に載せる必要があるのかどうか。中3になると一致してくるのは、進路の話とか、いろんなことを相談しなきゃいけなくなってくるので、多分こういうふうな感じになってくる。多分、右肩上がりになるのが普通のグラフのような気がするんですけれども、小4だけがちょっと説明できない。このグラフを、どうなのかなというふうに思ったんです。その2つがちょっと気になったんです。</p>
高橋委員長	<p>まず最初に、この57%という数字をどう捉えるかですよね。</p>
木下委員	<p>6割の子どもたちが1時間ぐらいは話を家でしていると。</p>
高橋委員長	<p>これ、小4から中3までをひっくるめてということなので、比較するデータがないので、本当に数字をみる主観になっちゃうんですけどね。いかがですか。</p>

古源委員	木下委員の視点が、すごく、今、ああ、そうだなと思ったんですけども、そうなると、この右の学年別のデータが必要なのかという話にちょっとなってくるかなと思うんですね。それと、1時間以上は大体6割、そして、30分以上も含めたら7、8割のおうちでは日常的に会話をする時間を持っているという考え方ができるわけですよ。そういう前向きな捉え方もいいのかなと思います。
高橋委員長	どうでしょう。私も今話を聞いていて、前向きな捉え方なのかなという気はしましたね。1時間から1時間半以上話して、子どもたちの割合がこれだけいるということについては。そうなってくると、右の表との整合性というところで。これ、事務局にお聞きしたい。右の表の4年生の数値が極端に高いというのは理由がわかりますか。
田中児童青少年係長	理由が正直わからないんです。
高橋委員長	ですよ。純粹に集計をした結果ですよ。
田中児童青少年係長	普通に考えると、保護者と同じような動きをするはずだと思います。確かに中学校2年生前後は思春期の影響もあるので低下していても不思議ではないと思うんですが、小4のところ、これは説明がつかないです。
高橋委員長	どうぞ。黒須委員。
黒須委員	子どもの捉え方って、親は会話しているつもりでも、子どもは一方的に言われているという、何かそういう捉え方がありますよね。4年生だと、親との会話じゃなくて、命令されているじゃないけど、そういう捉え方もあるんじゃないかと思います。ただ、この表があるとほんとうにわかりにくい、ちんぷんかんぷんになっちゃいますよね。
高橋委員長	どうしましょかね。左と右の表の関連性が難しいかな。
黒須委員	5年生からは普通ですし、この4年生の捉え方だけが。
木下委員	このグラフをなくして、この2つを横並びにして、ちょっとコメントをつける。逆に下の部分が小さ過ぎるので、見やすくするという手もあるかなと思います。
高橋委員長	どうしますか。確かに木下委員が言われたように、説明を求められたときに、いや、グラフの数値をそのまま集計しただけですというのは、ちょっとつらい。耐えられないと思いますので。この円グラフの

黒須委員	ほうだけ、もう少し大きくしてということで。これを大きくするだけでも十分見やすくなりますよね。どうでしょう。よろしいですか。
高橋委員長	いいんじゃないですか。インパクトがあるんじゃないですか。
羽田委員	よろしいですか。羽田委員、どうぞ。
高橋委員長	この円グラフを少し説明するようなコメントなり書いて、年齢が上がるにつれ、会話が増えていくというようなものがあるといいのかなと。それと、表のアイコンが何でお父さんしかいないんだろう。
羽田委員	どっちの表ですか。
高橋委員長	アイコンの絵ですね。
羽田委員	そういうところも配慮は必要ですね。
黒須委員	多くのお母さんたちは「子どもと話をしているの、私よ」と思うかもしれない。
古源委員	この絵は、私も老眼が進んでいるから、わかりにくいです。カラーになったらわかるのかなと思ったんですけども、絵が子どもか大人かもわかりにくくて。
高橋委員長	以前のリーフレットを見たら、お父さんは眼鏡チックなんですよ。今回はちょっとお父さんの絵が若過ぎて、私も老眼なので、大人と子どもの区別がつきにくいんです、このアイコンが。
古源委員	下の、児童・生徒と保護者、これを見ないとわからないですよ。どっちがどっちか。大人か、子どもなのか。
高橋委員長	どっちが大人と。細かい部分ですけど。
田中児童青少年係長	事務局に質問ですが、保護者がわかりやすいようなイラストに修正することは可能ですか。前回の眼鏡チックのほうがわかりやすいですよ。
高橋委員長	フリー素材から似たような絵を探すということもできるかとは思いますが、前回も原稿段階ではこの形で、印刷業者さんに頼むときにわかりやすい絵に変えてくれということでお願いしていたかと思いません。
田中児童青少年係長	それでは、また同じような形で。あと、今、お父さんだけでいいのかという話がありました。前は、これ、一緒に出ているんですよ、お父さんとお母さんが。
高橋委員長	そちらも、たたき台の印刷スペースの関係でこうなってしまうとい

<p>少年係長 高橋委員長</p>	<p>るので、発注時は前回同様、両方を入れるようにいたします。</p> <p>今、その辺のこともかなり気を使わなきゃいけない時代ですので。そういうところで突つかれてもおもしろくないですし、せっかく皆さんで苦勞してつくり上げてきて。</p> <p>では、順番的に「放課後の居場所」ですね。ここも、また同じように、お一人ずつご意見をいただきたいと思います。</p> <p>私から発言しますと、まず、表記的などころで、右側の円グラフの上の文言のところ、「家に誰かいます」、これは「いますか」ですね。次に、下の四角、『放課後の居場所』について、調べたものです。」の下の大きな括弧のところ、2行目ですが、「それでは、放課後を含めた生活全般の中で、子どもの実態と保護者の認識の現状に問題は全くないのでしょうか？」というところで、「認識の現状に問題は全くない」というのが、表を見ただけでどこまで伝わるのかなということを思いました。これは文言を修正しないとイケないと思います。</p> <p>あと、この2行目が、今度は悩みの相談につながるということになったときに、つながる言葉になるのかな、リードになるのかなというのはちょっと思ったところです。</p> <p>それと、表を順番に見ていくときに最初、自宅にいる子どもが、保護者、子どもとも多い、6割近くいる。次に、「誰と過ごすこと」、「家に誰かがいますか」で、誰かが「いる」ということ、家に誰かいます。次、友だちと学校で過ごすことが多い、「放課後、誰と過ごしますか」、「放課後は楽しいですか」、「楽しい」ですというような順番になっています。まず思ったのが、「家に誰かがいる」というグラフのところ、「誰かいますか」、「いる」ことが多いとなったときに、誰がいるのか、というのがすごく気になるなと思いました。アンケート上、難しかったからですが、入れられたら入れたほうがいいのかと思ったことと、あと、最後、「楽しい」までいくんですが、「楽しい」ということで、先ほどの委員の皆様のお話にもあったんですけれども、実際、どういうふうに過ごしているのかな。また、何しているの、というのがすごく疑問で出てくると思うんですね。その辺のところをどう書いていったらいいのかと思いました。</p> <p>インターネットの、後で調査の集計結果が出てくるんですけれども、</p>
-----------------------	--

<p>木下委員</p>	<p>多分、これ、SNSの問題につなげるということになってくると、順番にもかかわってくるんですけども、「放課後の居場所」があって、次に「悩み」になっているんですね。ここは「悩み」じゃなくて「インターネット」につなげたほうが読むときにつながりやすいのかなと思いました。つまり、「放課後、誰と過ごしている」、「何をしている」というときに、多分、家でオンラインゲームをやっていたり、インターネットをやっていたり、SNSをやっているということにつながっていくのかなと。そうすると、この表の「放課後の居場所」の後、子どもの意識ではなくて、インターネットにつないでいくというような流れにするというのかな。そうすると、この下の「『放課後の居場所』について、調べたものです。」というト書きの中が、インターネットにつながるようなくだりになっていくと、見ていて、つながるのかなと思いました。</p> <p>インターネットに入って、最後、インターネットで、必ず、子どもたち、今、大きなトラブルを抱えて、これは全国的に問題になっていますので、悩み相談というふうな、そういうつながり方、全体的な順番の部分にもかかわってきます。そんなことを感じました。</p> <p>私からは以上です。では、木下委員、お願いします。</p> <p>流れ的には、今のお話でいいかなと思います。「放課後、どこで過ごすことが多いですか？」は「自宅」が多い、「誰と過ごす」のかは「友だち」、「家族」、そして、友だち、家族と過ごすんだけれども、家族がいないことが多いのが34%と。そうすると、一人で家にいることもあったりするんだらう、自宅で過ごして一人で家にいることもあったりするんだらうというようなことで、コメントとしては、自宅で過ごすことがあって、家族や友だちと過ごしているけれども、ひとりぼっちでいる子も、もしかしたらいる。では、小学生が一人で家にいるとき、居場所はどこかないのか。児童館等の、そういうようなところで過ごす子がアンケートからは少ないと推測されるというようなところがわかっていけばいいのかなと思いました。</p> <p>それから、右側のところで、これは「いることが多い」、「いないことが多い」と、6割、3割ぐらいで、これ、みんな保護者も子どもも顔がいっぱいついています。これは、全部集計ですか。保護者も子ど</p>
-------------	--

<p>高橋委員長 木下委員</p>	<p>ももひっくるめた数字ですかね。</p> <p>これはひっくるめてですか。事務局。のちほどでよいです。</p> <p>それから、その右側の折れ線グラフのほうが、学年が上がるにつれて、家に「いる」と答えた割合が高いということですよね。これは何でか。多分、これ、帰りが遅いからなんです。中学生になると帰りが遅いので、お母さんも仕事から帰ってきている時間に帰るので、多分、右肩上がりに上がっているのかなと思いました。</p> <p>それから、下のグラフの中2が一つだけ下がっているのが気になるという、これも原因がわからない、聞かれて何と答えればいいのかなど思ったところです。以上です。</p>
<p>高橋委員長</p>	<p>ありがとうございます。さっきの、事務局に聞きたいんですが、わかりましたか。</p>
<p>田中児童青少年係長</p>	<p>これは元々の数が、65.79%、65.60%という形になるので、小数点以下なしで表示した結果、たまたま一致してしまうという形でした。</p>
<p>高橋委員長 古源委員</p>	<p>続きまして、古源委員、お願いします。</p> <p>これは次回につなげたいなと思ったんですけども、一番左上の「(お子さんは)放課後、どこで過ごすことが多いですか?」という問いに対して、「自宅」と「友だちの家」と公的な居場所、「その他」しなくて、何で「学校」を入れなかったんだろうと思ったんです。というのは、放課後の定義をどこかで書いていただいたほうがいいのかなと思ったんですけども、学校の先生的には、放課後は5時とかまでのことですか。</p>
<p>高橋委員長 古源委員 高橋委員長</p>	<p>時間的な捉えですか、放課後の。</p> <p>下校時刻から何時までのこと。夜までではないですよ、放課後は。特に定義したことはないので、文科省か何かで定義していればあれですけども。</p>
<p>古源委員</p>	<p>これを聞くときに、放課後といったときに、子どもたちが、多分、自分がおうちに帰るまでの、5時とか、6時とかの時間までと思ったと思うので、その時間は部活があったら絶対に学校にいますよね。というようなことを考えたときに、「学校」というのがあったらまた違った結果になったのかなとちょっと思ったりもしました。これは次の機</p>

	<p>会があったら、考えていったらいいかなと思います。</p> <p>あと、『放課後の居場所』について、調べたものです。」というところに、どういう所見が書かれる予定なのか、ちょっとわからないんですけども、「放課後の生活が楽しいですか？」と聞かれて、9割以上の子どもが「楽しい」と感じているんですけども、「楽しい」と感じる一方で、アンケートの自由筆記欄を見ると、みんな外遊びをしたいという自由筆記がすごく多いんですね。それは、やっぱり外遊びができていないことに対する、現状に対しての意見だと思うので、何かそういう部分で、子どもの物理的な居場所としての外遊びの場が足りているのかなというようなことも、どこかで示したらいいのかなというふうに思っています。以上です。</p>
高橋委員長	<p>今の古源委員のほうから話がありました、物理的な居場所。外遊びというのは、放課後を「楽しい」と感じている子どもたちがこれだけいるけど、外遊びをしたいという希望的な感想もあるのではないかと。</p>
古源委員	<p>せっかく自由筆記で回答してもらっていて、その中で、やっぱり私たちもそれにすごく気がついたと思うので、何かそういったことにも触れられたらいいかなと。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、羽田委員、お願いします。</p>
羽田委員	<p>私、漠然と、何で学童保育がないんだろうと思ったけど、アンケート対象が小4からだから学童保育はなくて当たり前なんだと。学童は小3までが多いですからね。それから、3つ目の「放課後の生活が楽しい」、これは多分、家が楽しい、とかいうんじゃないかと、家でスマホをやったり、ゲームしたり、それが楽しいんだろうなというふうに思いました。端的にいうとスマホがあれば家じゃなくてもいい、きっとそういう楽しさなんだろうなというふうに見ました。下に関しては、意見はありません。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>櫻井委員、お願いします。</p>
櫻井委員	<p>高学年、中学生になると、帰宅時の家族の在宅が上がっていくということですが、私は、学校から帰ってくるのが遅いというよりも、もともと親が勤めている時間帯の関係なのかなと思っております。小学</p>

<p>高橋委員長 櫻井委員 高橋委員長 櫻井委員 高橋委員長 大澤委員</p>	<p>生のときよりも、だんだん高学年、中学生になるほうが、親が勤めに出る率が多いはずなので。それと9割以上の子どもが放課後の生活を「楽しい」と感じているという、これもやはり先ほど言われたように9割以上というのはすごいですね。</p> <p>それと、「(お子さんは)放課後の生活が楽しいですか?」というので、「楽しい」が57%ですよね。保護者は55%。「9割以上の子どもが、放課後の生活」、まあまあ楽しいというのも合わせてですか。</p> <p>合わせてですね。</p> <p>わかりました。以上です。</p> <p>ご質問なども、せっかくの場ですから。以上でよろしいですか。</p> <p>はい。</p> <p>大澤委員、お願いします。</p> <p>子どもが9割以上、放課後を「楽しい」と、ほぼ楽しいと思っているというのはすごくいいことなんだろうなと思うんですけども、外遊びができなかったりとか、家にいることが多くて、楽しいということがゲームだったりとかというふうになると、みんなと、友だちと接する機会が増えたらいいのかなと思います。今、ちょっと放課後子ども教室の手伝いとかもしているんですけども、開いていても、子どもがあまり人数が来なかったりとかというののもあって、友だちと触れ合う機会が増えたらいいのかなというののがすごく思っ……。すみません、関係ないかもしれない。</p>
<p>高橋委員長 黒須委員</p>	<p>言わんとしていること、わかります。黒須委員、お願いします。</p> <p>私は、この右側の「(お子さんが)学校から帰ったとき、家に誰かいますか」と、これを載せるよりは、設問1の「あなたは放課後、どう過ごしていますか?」を載せてほしかったと思ったんですけども、前回の話で、それってどうだったか記憶がなくて、議事録も読み返してなくてすみません。私としては設問1を載せてもらいたいなと思う。放課後の使い方を、もう一回、みんな、考えてみましょうよという提案をしたいなと思いました。そうすると、雲の中に、先ほど言った、外遊びや部活、友だちと遊ぶ等、人とかかわる時間の大切さを親子で話してみませんか。人と交わることによって、相手の気持ちを考えたり、意見を認める大切さについてわかってきますよ、話し合っ</p>

みましょうよ、みたいな提案をできたらいいんじゃないかと思います。

全体的に、雲の中は全部、こうしてみたらどうですかみたいな提案をするほうがいいです。ここでこうしたほうがいいという、こっちの結論をここに出すんじゃないくて、親子で話してみましょうよ、みたいな提案をする、そういうところがこのスペースに全部来るといいなという感じで、こちら側の思いは下のほうの四角の中に入れていく。そういう提案のほうがいい。自分がこういうのをもらったときに、道徳的な回答みたいなのは読む気にならない、そんなの勝手でしょうみたいな感じに思っちゃうタイプなので、提案する側としては、こういうことを話し合ってみましょうよ、みたいな、そういう提案の仕方を、この中でしていったらいいかなと思いました。

それで、私、小学生は、そうやって放課後子ども教室があると思うんですけども、緑中の放課後カフェをちょっとお手伝いしていて、先日、緑中の放課後カフェがモデルになって、西東京市で始めた話が新聞の武蔵野版に載ったんです。

小金井市は、地域によると思うんですけども、中学生の居場所というのがほとんどないので、もっとみんなで考えてあげましょうよ、みたいな、何かそういうふうに私は思っているんで、右側のここに「学校から帰ったとき、家に誰かいますか」という質問よりも、「どうやって過ごしていますか」のほうが大事なように思います。その辺も検討していただければと思います。

ありがとうございました。今、一巡しました。ちょっと確認します。

まず、下のまとめのところで触れておいたほうがいいことが、自宅で一人で過ごすことが多いことが推測されるということ、外遊びとかについても触れたほうがいいんじゃないか、ということ。これについては、下の四角のところで触れられればいいかなと思っています。

次に右側の円グラフです。これが果たしてここに必要かというところで、今、黒須委員から、どう過ごすかというグラフを載せたほうが、グラフを読むときにスムーズに読みやすいんじゃないか、ということです。ちなみに黒須委員、質問なんですけれども、どう過ごすかで、どんな回答があったんですか。どう過ごすか。

学習塾とか、そういうところが一番多いですね。

高橋委員長

黒須委員

大澤委員	設問としては、小学校の放課後こども教室・中学校の部活が①で、②に学習塾・習い事、③に遊びに行く、④でその他というふうになっているので、「遊びに行く」という子もいっぱいいるんだよ、というのが前面に出られたら、それはそれでよいと思います。
高橋委員長	ありがとうございます。どうでしょう、この部分、皆さんご意見がある内容かなと思うんです。
大澤委員	回答を見ても、児童で「遊びに行く」という回答数は少なくはない。学習塾とかに行っているのが多いんですけれども、2番目ぐらいには多い。中学生の①は子ども教室じゃなくて部活動ですね。
木下委員	これ、全部一緒にまとめちゃうとわかりにくい。中学生と小学生、分けたあげたほうかい。
高橋委員長	先ほど、最初の話じゃないですけども、放課後の、その捉えというか。古源委員、どうぞ。
古源委員	中学生の居場所の話が出たんですけども、やはりこれも木下委員に伺うのが一番いいと思うんですけども、やっぱり中学生の放課後は部活動、もしくは下校みたいなルールですよ。
木下委員	部活動が6時、6時半まで。行っていない子は習い事に行く。あとは何もないときはどこか遊びに行く。
古源委員	一旦、学校が終わったら、即時学校から出るということですよ。
木下委員	はい。
古源委員	そうなってくると、こういう取り組みも確かにあるんだけども、やっぱり小金井市で、今、どういう学校運営がされているかということを見ると、盛り込み方というか、そういったことがちょっと難しくなるのかなというふうに感じました。全員ではないにしても、ほとんどの子は部活動をやるというのが前提ですから、ちょっと思いました。
黒須委員	多分、部活動ができる子はいいけれども、部活動に参加できない子たちの放課後をどうするかということですね。さっきの西東京市の放課後カフェは名前を書いて利用しているし、緑中ではやっていませんが、どういう子がいるということをちゃんと把握しておくという、それも大事なことかな、と思います。 学校は授業が終わったらさっさと帰りなさいみたいな、小学校も中

	<p>学校も基本はそんな感じだと思うんです。</p> <p>私は、子どもが小学校のときに、何で雨が降り始めたときに子どもを帰すのよ、びしょびしょになるのは当たり前なのにどうして帰すの、と思ったことがあったんですが、学校というのは授業が終わったらさっさと帰りなさいというのが前提です。基本はそうかもしれないんですけど、やっぱり小金井市の事情を考えると、武蔵野市の武蔵野プレイスや足立区のギャラクシティ、こども未来創造館のような、大人も子どももそこで楽しめる施設が小金井市はないから、だからこそ中学生のための居場所づくりを何とかしてあげられないのか、そういう思いで私はかかっているんで、その辺は学校側との協議で進めていくしかないのかなとは思っています。</p> <p>部活に参加できない子どもたちにも、友だちとかかわる時間を、休み時間、中学生は特にすごく少ないと思うんです。次の授業に移動したりとか、授業の準備をしたりとかですごく忙しいと思うんですけども、そういう中で、子ども同士が、生徒同士がかかわる時間を持たせてあげることができないのかなという思いでいるので、そういうことも、大人たちにも考えてもらいたいという思いがあります。</p>
高橋委員長	<p>今の黒須委員の話でいったら、それを入れるとなると、このデータからそこに持っていくのは、結構どう結びつけるかでちょっと悩むところではありますね。中学校の部活に入っていないお子さんの放課後の過ごし方で、家族とのかかわりというところで。</p>
黒須委員	<p>そこまで持っていかななくても、とりあえず「どう過ごしていますか？」というのを、ちょっと親子で考えてほしいと思っています。</p>
高橋委員長	<p>いかがでしょう。今の黒須委員のお話は、最後の四角い枠の中でのまとめのところに入ってくるようなお話ですか。</p>
黒須委員	<p>雲の中で、親子で話し合ってみましょうよ、みたいな、提案みたいな、そういうところではあります。</p>
高橋委員長	<p>今、雲の話が出ましたが、これはこの後の協議の中でも、それぞれのところで、雲と、それからまとめの部分があるので、雲の中は何を伝えるのかということ、ここで皆さんの共通確認しておいたほうがいいかなと思うんですが、いかがですか。黒須委員からは、提案的な内容も入れたほうがいいんじゃないかというお話でした。</p>

<p>古源委員</p>	<p>一般的に言う調査の結果というか、概要で、それが必ず入ってきます、何割程度のお子さんがこういう状況です。調査をした実態ですよ。それプラス簡単な提案的なものを入れられたら、例えば今のお話であれば、親子で話し合うことを考えてみたらどうですかみたいな話になります。この雲の中での位置づけはどうでしょう。</p> <p>黒須委員の発言、非常に考えさせられるところがあったんですけども、中学生の子どもにも居場所が必要だよという意見が、この委員会として出すべきかどうかというのはまた別問題だと思うんです。どうしても、小学生だったら、保護者がいない間に帰ってくる子どもに対しての時間の対処に気を配ったりということは当然のようにするけれども、もしかしたら、中学生だからもう大丈夫でしょう、というようなご家庭の判断もあったりするのかな。ちょっとそこは視野として持たなくちゃいけないのかなと。中学生になっても、やっぱり放課後の時間についての過ごし方は、保護者の方が気を配るとか、親子でどうしているの、というような声をかけましょうというようなことを雲の中に入れていただけたら、黒須委員の意図が反映されるのかなと思います。</p>
<p>高橋委員長</p>	<p>皆さん、いかがでしょう。古源委員のほうで、私たちの思いをまとめていただいたというような気がしたんですが、よろしいですかね、雲の中については。</p> <p>あと、最後に下のまとめのところですね。「『放課後の居場所』について、調べたものです。」というところで、皆様のほうでこれは入れたほうがいいんじゃないかとか、ございますか。先ほどあったのが、どちらかという、放課後の過ごし方で、家にいることが多い、それから、友だちと過ごしたり、家族と過ごしているということで、ただ、自由記述には外遊びのこともあったので、家にいることが多いけれど、外遊びをすることとか、友だちと触れ合うということについて、また考えてみましょう、というようなことを入れたらどうでしょうかという話がありましたけれども、そこはいかがですか。人とかかわること、時間の大切さを考えませんか、というようなお話がありましたよね、先ほど。確かにそうだなとは思ったんですが。よろしいですか。最後の四角囲みのところのまとめの一つとして、そういうところも入って</p>

	<p>いく。</p> <p>あと、私が最初に話した、「保護者の認識の現状に問題は全くないのでしょうか？」という、ここはどうでしょうかね。事務局のほうに質問です。今、この場で協議をして、この四角囲みの中とかは今後どうしていったらいいですか。</p>
田中児童青少年係長	<p>基本的には、ある程度、こういう文章で、というか、方向性だけは決めていただいて、また事務局でたたき台を作成して皆さんにお配りするという形になるかと思います。</p>
高橋委員長	<p>わかりました。あと、この四角囲みの中で、もう少しこういうものも入れたほうがいいんじゃないかとか、方向性などありましたら、ご意見いただければと思いますが、いかがでしょう。</p>
田中児童青少年係長	<p>すみません、事務局から2点ほどよろしいですか。</p> <p>1点が、先ほどお話のございました「誰と過ごす」を「どう過ごすか」というところで、設問1①に切りかえるというところですか。確認ですが、数字としては小学生と中学生は切り分けるということによろしいですか。</p>
高橋委員長	<p>すみません。そこはちょっと漏れていましたね。まず、そこを差しかえるかどうかという話ですけれども、どうでしょうか。差しかえるのであれば、小学生と中学生を分けてということになってくる。ただ、そうすると、部活とか、放課後子ども教室とか入ってくるんですね。そうすると、左側の円グラフの放課後の捉えはどういう捉えになってくるんだというところになってきて、また難しくなるかなと、私、先ほどの話を聞いていて思ったんですが、皆さん、いかがでしょうか。差しかえた場合ですね。羽田委員、どうぞ。</p>
羽田委員	<p>確かに、ここ、小学生と中学生、一緒にしちゃうというのは無理がありますよね。かといって、単にスペースの問題もあるし。</p>
高橋委員長	<p>そうすると、あえて差しかえるのはなしでということによろしいですか。</p>
黒須委員	<p>この雲をもっと小さくして、それで、ここだけに対しては、中学生と小学生を載せたらどうかな、と思います。</p>
高橋委員長	<p>おさまるかどうかですね、小学生と中学生が。</p>
櫻井委員	<p>分けなくても、小学生の4年生からですから、ある程度、高学年で</p>

高橋委員長	すから、一緒でもいいんじゃないでしょうかね、中学生と。
田中児童青少年係長	事務局のほう、何かありますか。
黒須委員	あわせて保護者の方を削ってしまうか、というところですか。今回の結果のこの項目は、保護者とお子さんで、数字上、そこまでの認識差がないので、両方載せなければいけないということではないかと思えます。どちらかだけにしてしまうということはできます。その場合、普通はお子さんだけということになるかと思えます。
高橋委員長	それがいいかもしれない。これ、親がこういうふうにかかれたら、家庭の事情で、帰ってきたときに「お帰りなさい」と言ってあげたくても、そうやって言ってあげられない事情の親が、こんなふうにかかれても、みたいな感じで受けとる場合もありますよね。
田中児童青少年係長	どうでしょう。一番最初のグラフですよ、今、言われているのは。親と子どものところと一緒にというのは。いかがですか。
高橋委員長	でなければ、4つ並べるような形で作成させていただいて、コメントがかなり小さくなりますけれども、そういった形でも対応はできると思います。
田中児童青少年係長	そうすると、保護者と子どもはそのまま載せて、プラス今言われた小学校、中学校、放課後の過ごし方を入れると。コメントが小さくなるということですね。だから、雲と四角のところのスペースも減ってくるということになりますかね、そうするとね。
高橋委員長	そうですね。減ってくる形にはなります。
木下委員	そこは大分文言を精選して短くするというような方向でいかがでしょう。
高橋委員長	右下の折れ線グラフは要りますか。意味がありますか。
木下委員	いかがでしょう。
羽田委員	肯定的回答を学年別で知るといえるのは何か意味があって載せているのか、私は原因がわかりません。
木下委員	もともと調査対象が少ないので偏りが出ちゃうのは仕方がないと思う。
木下委員	「楽しい」の左だけのもので、学年別に、どのぐらいこの学年が楽しいんだか、というところまでは細かく出す必要性はないのかなと。

高橋委員長	<p>ここを削れば、もう少しスペースが出てくるのかなと思います。</p> <p>いかがですか。木下委員のとおりで。私たちが一番伝えたいことは、円グラフのところで保護者には伝わるのかなと。そうすると、この右側の折れ線グラフはなしにしてスペースをつくるということによろしいですか。じゃ、その方向でいきたいと思います。「放課後の居場所」についてはよろしいでしょうか。古源委員、どうぞ。</p>
古源委員	<p>確認をさせてください。「放課後、どう過ごしていますか？」という、このグラフを入れるということですか。</p>
高橋委員長	<p>「どう過ごしていますか？」の、小・中分けてですよね。</p>
古源委員	<p>小・中分けて。そうすると、小学校だと「放課後こども教室」、「塾」、「遊びに行く」、「その他」。</p>
高橋委員長	<p>中学校だと「部活」。</p>
古源委員	<p>「部活」、「塾」、「遊びに行く」、「その他」で、数字的には②の習い事・塾が一番多くなるわけですね。そのデータをどう分析するのかなというところが、どうこれに該当して考えたらいいのかなというところを、ちょっと伺いたいなど。</p>
高橋委員長	<p>どうでしょう、皆さん。黒須委員、どうぞ。</p>
黒須委員	<p>私は、そういうふうに提示することによって、本当はもっと人と人とのかかわりが大事なんじゃないですか、みたいなのを読み取ってほしい、そんな気もします。確かに塾の先生とかかわったりできると思うんですけども、そういうところに行かなくてもかかわれる場所を考えてほしいなどと思って、そういう提案というのでどうでしょうか。</p>
高橋委員長	<p>古源委員、いかがでしょうか。</p>
古源委員	<p>ごめんなさい。ちょっと、今、考えがまとまらないところです。</p>
高橋委員長	<p>木下委員、いかがですか。中学校で考えたときに、塾、部活動。</p>
木下委員	<p>1が部活動、2が塾でしょうね、中学校だと。小学校だと習い事、遊びが同等ぐらいでしょうか。</p>
高橋委員長	<p>それに対しての、この専門委員の見解ですよね。つまり、放課後の過ごし方という。</p>
古源委員	<p>それが現状です、ということしか言えないですね。さっき大澤委員も「放課後子ども教室」にかかわっているとおっしゃったんですけども、それに対して、利用する子どもが少ないというのは如実に数</p>

<p>高橋委員長</p>	<p>字で出てくる。そうすると、放課後子ども教室って何ですか、という話が出る。部活は説明しなくても、みんなわかる。だけど「放課後子ども教室」とわざわざ項目を上げていて、グラフに出ているけれども、例えば、今回の調査では小学生190人で利用者が15人とかで、それが①の項目に来ることの意味って、何かちょっと考えちゃったりすると、それはどうなのかなと。でも、それが現状ということであれば仕方がないですけども。数字をどう見ていただくのかなという所で、ちょっと考えちゃいます。</p> <p>いかがでしょうか。ここで私たちが最後の四角のところ、まとめとしたいのは、先ほど皆さんの協議の中で出ていた、おうちの中での家族や友だちとか、人とかかわることについて、皆さん、もう一度考えませんかというところですかね。まず、私たちの落としどころを皆さんで確認しておいたほうがいい。いかがでしょう。この放課後のところでの提案ですよ。どうですか。そこはよろしいですか。</p> <p>そうなってくると、先ほど古源委員が言われた「塾」、「放課後子ども教室」、「部活」等が入ってきて、どう関連づけていくかというところですよ。黒須委員、どうぞ。</p>
<p>黒須委員</p>	<p>私は放課後子ども教室を見学したことも、のぞいたことも全然ないので、ほんとうに他人事になっちゃうんですけども、自分が子ども会の行事とか企画したりとかすると、楽しいことは、やっぱり人が来る。でも、イメージ的に楽しくない来ない。放課後子ども教室の子どもたちが来ないというのは、ほんとうに子どもたちがやりたいことをみんな考えてあげたらいいんじゃない、というふうに、全然現実を知らないから考えてしまうんですけど、そういう提案にもなるんじゃないかな。一生懸命やっぺらっぺら方には申しわけない意見ですけど。</p>
<p>大澤委員</p>	<p>すごく楽しいこと、ちゃんと考えてはいるんですけども、例えば昨日、市内全部かはわからないですけども、小学校は4時間授業だったんです。そうすると一回、みんなおうちに帰る。すごく天気がいい。皆さん、外に遊びに行く。いつもだったら放課後子ども教室に来てくれる子も来てくれない状態になるんです。毎回来てくれる子というのはわかっていて、この子、毎回来てくれるんだ、というのはある</p>

高橋委員長 大澤委員	<p>んですが、やっていること自体は楽しくても、その日にほかの用事やほかには友だちと遊ぶとかがあれば来ない。特に、わざわざ一回帰ってきてから、もう一回学校に戻って放課後子ども教室に参加するとなると、私でもちょっと面倒くさいと思うので、子どもも、近所の子と遊ぼうか、になってしまう。</p>
高橋委員長 大澤委員	<p>一回帰ると、確かにね。</p> <p>一回帰る、というのがやっぱり大きくて、学校が終わってランドセルを持ったまま来るときは、結構、皆さん、来てくれるんですけども、バランスというか、日によって全然違うというのは確かにあるんですよ。毎回毎回、みんなが楽しめるような企画を考えてやっているんですけど。</p>
高橋委員長 黒須委員	<p>どうぞ、黒須委員。</p> <p>うちの子は三小だったので、昔から校庭開放というのがあって、親たちが当番で行ってみたいな感じで、子どもたちは、一回家にランドセルを置いてから来るというのが約束みたいな感じで、でも、それを子どもたちと約束して、結構行っていたと思うので、外遊びとかを取り入れていく方向とかというのは駄目なんですか。</p>
大澤委員	<p>校庭での外遊びは学校によってはできないんです。二小は、はっきりとはわからないですけど、そのかわりに体育館で、よくボールを使ったりしています。それと、三小もそうですが、二小も学区の範囲が広いんです。うちも学校に行くまでに15分かかかってしまうので帰ってきて、ランドセルを置いて、また15分かけて学校に行くかと言われると、ちょっと厳しい状況ですね。</p>
櫻井委員 大澤委員 櫻井委員 大澤委員	<p>そうすると、やはり近場の子が。</p> <p>近場で遊んだり、ということですね。</p> <p>決まっちゃいますね。</p>
高橋委員長	<p>そうですね。あとは、今日はいいか、ゆっくり家でゲームやろうかみたいな感じになってしまうので、ジレンマというか、一生懸命、大人が企画してやっても、日によって、来たり来なかったりというジレンマ。やっているほうとしてもあります。</p> <p>今のお話で、放課後子ども教室も色々ありますので、あまりそれだけにになってしまうと、私たちの専門委員の立場として、また、私たち</p>

大澤委員	<p>の調査、研究の内容として、どうなのかなというのがありますね。</p> <p>放課後子ども教室は、あんまり人、来ていないんだね、と思われるのも、ちょっと。</p>
高橋委員長	それは避けたいですね。
大澤委員	皆さんにぜひ利用していただきたいので。
高橋委員長	黒須委員、どうぞ。
黒須委員	ここをPRの場にして、こういうのもあります、活用してください、という。
大澤委員	そういう持っていき方もあるかとは思いますが、各学校によって事情が違っていたりしますから。
高橋委員長	<p>そうすると、先ほどの話に戻りますが、小・中の放課後の過ごし方を入れるというところは、難しさがやっぱり出てくるのかなという気はします。</p> <p>資料を見ていて思ったのが、「放課後の居場所」、放課後の過ごし方ということで、子どもたちは自宅で過ごすことが多い。それから、その自宅には誰かいることが多い。誰かがいるわけです。それから、子どもは放課後、誰と過ごすかということで、友だちと過ごすとか、家族で過ごすというのが、比較的、多いんです。</p> <p>さらに、「放課後の生活が楽しいですか？」で、ほぼ「楽しい」というふうに答えているということで、そうなったときに、やっぱり子どもの放課後の過ごし方については、家に誰かがいることが多いわけだから、家族でもう一度見守りませんか。また、友だちや家族と過ごすことが多いというので、家族だけではなくて、地域でも子どもたちの放課後の過ごし方について見守ったり、どう過ごしたらいいか考えてみませんか、というふうにまとめたらどうかと思うんです。</p> <p>そうすると、最初に皆さんが、この四角囲みで一番伝えたいこと、人のかかわりや、放課後の時間の大切さというところにつながるのかな、と思ったんですが、いかがでしょうか。</p> <p>結果としては、原案に戻るということになるんですが、おうちに誰かがいることが多いんだけど、否定的な見方をしてしまえば、子どもたちは家にいるんだけど、それに対して関わりが薄いというか、そういうことがある。ただし、それはそのまま書けないです。だ</p>

黒須委員	から、その点を考えていきたいと思いますという呼びかけ。どうでしょう。 黒須委員、どうですか。
高橋委員長	私は、やっぱり放課後子ども教室が、参加者が少ないから、それをもっと活用していきましょうよみたいな方向も必要だと思うんです。
大澤委員 高橋委員長	それは放課後子ども教室のほうで個々にやっていただく、というのはどうでしょう。放課後子ども教室も制度が変わったりして、これから、さらに周知をしていくことになると思うんですが。
黒須委員 高橋委員長	そうだと思います。 そちらのほうでやっていただいて、青少年問題協議会では、「放課後の居場所」ということで、あまり広くし過ぎない、あえて限定的にして呼びかけていくということ、いかがですか。そこまで触れずということ。
黒須委員 高橋委員長	そこまで触れずというか、そのまま数字を出したら駄目でしょうか。放課後子ども教室を利用している人数ということもそうですが、左側の表と、右側に小学校、中学生の放課後の過ごし方が入ってきたときの関係性や整合性、最後に私たちがまとめたいこと、伝えたいこと、そのつながりという面で少し難しいのかなという気がします。ここで「放課後こども教室」とか、「塾・習い事」、「部活」というものが入ってきちゃうと、そもそも最初に話をした放課後の定義は何なんだということになったときに、そこまで定義しないで小学生も中学生も同じようにアンケートをとっていますから、そういう点で言うと、もとの形のほうがおさまるのかなという気もするんですが。
黒須委員	放課後の過ごし方で、家族が家にいるということがすごく大事なことなのか、大事なことなのかという思いが私の中にはあるので、どうしても設問1の「どう過ごしていますか？」のほうが、もっと大事なことじゃないというふうに私は思うので、こちらを載せていただきたいと思うのですが。
高橋委員長	なかなかまとまらないですね。ある程度の方向性を示さないと、事務局も編集ができませんし。古源委員、どうぞ。
古源委員	このアンケートは、放課後の居場所に関する親子の意識の調査だと思います。誰か家にいますかという、66%の「いることが多い」というのは、私はちょっとびっくりで、というのは、なぜなら、周りで

<p>高橋委員長 黒須委員 高橋委員長</p>	<p>働いているお母さんが非常に多い中で、木下委員のご指摘みたいに、中学生は帰りが遅いからいる、というところはあるつつ、でも小4から小6でも半数以上、帰ったときに誰かがおうちにいるんじゃない、というのをちょっと思ったんですね。</p> <p>先ほど高橋委員長がおっしゃったみたいに、この下にSNSの話をつなげていくことで、家にいるのだから、子どもがSNSとかで過ごしている時間に関しても、もっと関心を持ってくださいねというふうなつながりにしていくとするなら、今の形でもいいのかなどというふうに思いました。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>わかりました。</p> <p>よろしいですか。また、放課後子ども教室とか、その辺のことも考えていきましょう。</p>
<p>木下委員</p>	<p>「放課後の居場所」については、今、皆さんで協議したような内容で、事務局のほうで修正案をつくっていただければと思います。</p> <p>では、次、悩みのところについてです。木下委員から、気がついたこと、感想など、同じようにお願いします。</p> <p>文言のところだけなんですけれども、雲のところは一番上のところは「誰にも相談していないかもしれません。」という言い方が、もう少し変えていただきたい。</p> <p>それから、2つ目の雲のところは、「学年による変動はあっても」、これは要らないかなというところと、あとは、一番下の右側のところは、「食べていない子もいます。」という表現、ここがちょっと、3カ所、気になったところです。</p>
<p>高橋委員長 古源委員</p>	<p>皆さん、何かうなずいていらっしゃるので、ここはまた修正をできればと思います。古源委員、お願いします。</p> <p>今の3カ所、私もそう思いました。あと、上から3つ目のグラフの「一人でいたとき地震などの災害があったらどうするか」の雲と、四角の内容が伝わりにくいんじゃないかなと思って、「保護者が必要と思っていることは、伝わっています。でも、それだけで大丈夫ですか？」というのは、何かあったら保護者が必要だと思っていることは子どももわかりますというんだけど、このグラフを見てどうわかるのか</p>

	<p>が、ちょっとわからないのと、この四角の中の5行目の「保護者が重要と認識していることは子どもにも伝わっていますが」という、ここもちょっと曖昧な感じがします。重要なことは保護者と相談しなくてはいけないということ、子どもも理解しているんだよ、という意味合いなんだろうと思うんですけども、そのあたりの表現を変えていただけたらと思います。</p>
高橋委員長	<p>わかりました。皆さん、同じですかね。これはお願いします。 続きまして、羽田委員、お願いします。</p>
羽田委員	<p>特に皆さんのおっしゃったことで、あとはありません。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございます。櫻井委員、お願いします。</p>
櫻井委員	<p>私もありませんが、一番下の「(お子さんは)朝食を誰と食べますか?」というところで、「家族と食べる」、「一人で食べる」ですが、食べる「家族」は必要があるのかなと思いますね。例えばお父様とか、早く出かける方はあれですし、家族じゃなくても、「食べる」、「一人で食べる」で、「家族」は抜かしたほうがいいのかなどは思っています。</p> <p>以上です。</p>
高橋委員長	<p>これは事務局に質問ですが、アンケートのときは、家族で食べますかと聞いていましたか。</p>
田中児童青少年係長	<p>朝食、夕食ともに「家族と」という設問で聞いています。</p>
高橋委員長	<p>そうしますと、確かに「家族」を抜かすのも、そうかなと思いますけれども、聞いている内容でアンケートに答えた方にもリーフレットが配布されますから、同じほうがいいのかもかもしれません。ありがとうございます。大澤委員、お願いします。</p>
大澤委員	<p>皆さんがおっしゃっていた部分と同じなので、特には大丈夫です。</p>
高橋委員長	<p>黒須委員、お願いします。</p>
黒須委員	<p>私も木下委員と同じように、一番上の雲のところ、これ、アンケートの結果で、トラブルがあったときに、親にも言っていない子で4件ぐらいトラブルがあって、でも親が知っているのは2件だか1件という差が数字上に出ているので、ここは「誰にも相談していないかもしれない」じゃなくて、ほんとうにしていない子がいるという結果の説明じゃないかなと思いました。</p>

高橋委員長	それから、四角の中の数字の問題ですけれども、2段目の、2ないし4人に「一人の子」、この数字は漢字でいいのかな。
高橋委員長	以上ですか。雲の中のところについては、皆さん、同じ考えですので、ここの表記については、また修正をしていただければと思います。
田中児童青少年係長	あと、数値、数字等の表記についても、小金井市の表記基準があるんですが、それに合わせてということですね。
高橋委員長	こちらは読みやすいように直します。
高橋委員長	お願いします。悩みのところは以上でよろしいですかね。事務局、今の内容で修正できそうですか。
田中児童青少年係長	すみません、雲のところだけ確認を。どういう形で修正をするイメージでしょうか。1個目と3個目は、具体的にはどういう形で。
高橋委員長	1個目のところですが、どういう修正の方向でいきましょうか。最初に木下委員から話がありましたので、木下委員。文言としてまでは、なかなかこの場では決まらないでしょうけど……。
木下委員	これは子どもと保護者の意識が違うというところですよ。保護者が思っている以上に、お子さんは悩みを抱え込んでしまうというか、口には出しません、みたいな。
高橋委員長	意識の違い。
木下委員	わからないですけれども、そんなニュアンスなのかなと思います。
高橋委員長	皆さん、大丈夫でしょうか。うなずいていらっしゃいます。大丈夫そうですか。保護者と子どもの捉え方の違い、認識のずれという感じ。
古源委員	3つ目は、古源委員から、ありますか。
古源委員	大切なことをおうちで話し合っていることは読み取れます、というような意味合いならいいのかなと。
高橋委員長	「必要」ではなくて「大切なこと」。
古源委員	そうです。あと、四角のところに、例えば子どもの悩みとか変化に気づいてあげてほしいなというようなことを入れていただけたらいいかなと思います、言わないので、子どもは。
高橋委員長	提案として、ですね。
古源委員	そうです。
高橋委員長	確かにそうですよね。今までもメッセージは提案で終わっています

田中児童青少年係長	から。気づいてほしいというようなことを。よろしいですか、事務局。 はい。ありがとうございます。
高橋委員長	皆さん、悩みについてはよろしいでしょうか。ありがとうございます。続いて、インターネット・SNSについてです。木下委員から、お願いします。
木下委員	ここは、左下の「家庭内で携帯・スマホの利用ルールをつくっていますか?」、つくりましょうねというのが大きなところだろうと思いますので、そこが最後にどんとくるような形になればいいのかなと。あとは、文言として、四角の中の一番下の、左のところから「家庭のルールを守れなかった場合のルール」。ここは、「ルール」、「ルール」と続いてしまうので、「決め事」、「約束」にとか、そういうような表現、同じ文言が続くというのが、ちょっとわかりづらいので。以上です。
高橋委員長	古源委員、お願いします。
古源委員	私も、右下のグラフのところで、子どもと親とで携帯・スマホを持つメリットに認識のずれがありますよ、ということと、あと、一方的にこういうものが悪いものではなくて、とても便利なツールということ子どもが理解している、と読み取れると思います。便利なものだけれども、使い方が大切ですよというようなことをどこかに入れていただけたらいいかなと思いました。 あと、一番下の提言のところでは、ルールを子どもに守らせるのはもちろんなんですけれども、大人も使い方に気をつけてもらいたいということをお願いしていて、例えば食事中には使わないとか、やっぱり大人の背中を見て、子どもはまねしちゃうので、そういったことをどこかに入れていただけたら、と思いました。
高橋委員長	今、すごくいいなと思ったんですけれども、例えば食事中に使ってませんか、とかを1つ、2つ、文章に入れてくるといいかなと思います。大人の使い方というところで、食事中には使わないとか、それ以外に何かありますか。ちょっと考えて入れられれば。
古源委員	お願いします。
高橋委員長	ありがとうございます。羽田委員、お願いします。
羽田委員	今のですけれども、例えば就寝1時間前、使用しないとか、そもそ

	<p>も今の子どもたちって、生まれたときから親がやっているのをずっと見てきているので、今の子どもたちが依存しているのは、きっと私たち世代の責任だと思うんです。それと、さっき言ったような、使い過ぎは依存症という病気ですという記述があってもいいかなと思います。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございます。依存症ですね。櫻井委員、お願いします。</p>
櫻井委員	<p>別にありません。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございます。大澤委員、お願いします。</p>
大澤委員	<p>下の四角の中に、『使い方のルールがない・覚えていない』子は、4年前の調査より子ども・保護者ともに平均で10ポイント悪化し」と書いてあったんですけども、これは「悪化」という言葉でいいのかなとすごく気になっている。</p>
高橋委員長	<p>私も変えたほうがいいかなと思いました。</p>
大澤委員	<p>思いました。</p>
高橋委員長	<p>ルールがないのが10ポイント増えた、ということですね。ありがとうございます。黒須委員、お願いします。</p>
黒須委員	<p>ルールの最初の左側の四角は、ここはまとめた形というか、「決めましょう！」じゃなくて、こんなルールはどうでしょうという感じの提案型がいいと思います。</p> <p>それと、先ほど依存症とかのお話もありましたけれども、スマホのやり過ぎの斜視だとか、ブルーライトの影響での不眠症もありますし、そのほか学力低下や有害サイトなど、ほんとうに色々なトラブルがあるので、アンケート結果とセットで、どこかで伝えたいという思いがあるので、入らないかなと思いました。</p>
高橋委員長	<p>トラブルがあるという。</p>
黒須委員	<p>トラブルが現実にも身近で起こっているという、まだ件数はほんの少しですけども、アンケートの中にはそういうのがあったことを伝えていくというのも、せっかくのアンケートなので、大事かなと、テレビでよくニュースになるようなことだけじゃなくて、ほんとうに身近な、小金井市の、周りにあるということも伝えていくのが大事かなと思いました。</p> <p>それと、3つ目の吹き出しの最後のところも、「家庭で常に話合っ</p>

高橋委員長	<p>みませんか」も「大切です」と言い切るんじゃないで、 「みませんか」という言い方に変えていただけたらなと思います。以上です。</p> <p>そうすると、今、黒須委員からありました、トラブルがあるということについては、その四角囲みの中で入れておくといいかもしれないですね。そういうような、えっと思う保護者の方、いるかもしれないですからね。</p> <p>あと、雲の部分というか、吹き出しの部分については、提案型の文末というか、語尾でいくということですよ。わかりました。</p> <p>あと、この四角囲みのところですが、プラスで入れられたらいいなというのは、困ったことや心配なことがあったら、すぐに相談をしましょうというようなことを入れておいたほうがいいかなと思います。実際に困っている、心配だと思っている人もいるかもしれないので、相談しましょうという、一言あると、相談してみようかなという気にもなるのかなと思いました。それと、4行目の真ん中のところで、「ネット上の様々な危険から子どもを守るため、子どもと十分話し合い」ということで、「子ども」なんですけれども、「家族」で十分話し合うということなのかなと、先ほど大人の使い方についても、やっぱり注意喚起という話があったので、家族で話し合うということなのかなということを思いました。</p> <p>私は以上です。そのほか、SNS・インターネットについてあります。ここで出た意見は、多分、また修正案の中で反映できるんじゃないかなと思いますので、大丈夫ですかね、事務局。</p>
田中児童青少年係長	はい。
高橋委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>最後になりますが、全体を通して、いかがでしょう。</p> <p>また、最初にやった、『子どもの居場所』について考えてみませんか？」のところ、今までの話を受けて、こういうのも入れたらいいんじゃないかとか、そういうご意見でも構いませんが、全体としていかがですか。黒須委員、どうぞ。</p>
黒須委員	高橋委員長から、順番を変えてという話がありましたよね。「インターネット」を後に持っていくんですけど、「悩み事」を後に持ってき

高橋委員長	<p>て、「インターネット」をここに入れていくという話がありました。それもなかなかいいかなと思いました。</p>
田中児童青少年係長	<p>どうでしょう。見開きになるので、どういうふうになるのか、なかなかイメージがつかないものですが、事務局のほうで順番についてはどうですか。</p>
高橋委員長	<p>基本的には、従前と同じ形で、4つ折りになりますので、見開き、開いたところに「悩み」が来て、さらに開くと「居場所」と「インターネット」という組み合わせにはできると思います。</p>
高橋委員長	<p>開いて、「居場所」と「インターネット」ということになるんですね。そうしたら、私が言ったことについては、このままでいいです。つまり、見開きを開いて、そうなるんですよ。</p>
古源委員	<p>ここが、今のだと「居場所」で、「悩み」ですよ。ここに、「会話していますか？」が来て、こうなって、ここに「インターネット」が、今だと来る。先生がおっしゃっていたのだと、「会話していますか？」が来て、「悩み、どうしていますか」が来て、こうすると、「居場所、どうしていますか」、「インターネット、そういうとき、使っているんですか」みたいに。</p>
高橋委員長	<p>できたもので考えていくと、どっちが先というのは、私は取り下げてもいいかなという気になったんですが、でき上がりのイメージで考えると。いかがですか。</p>
羽田委員	<p>相談機関はどういうところですか。相談機関を記載したらというお話ですけれども……。</p>
高橋委員長	<p>確かに皆さんで協議する中で、そういうところも載せたほうがいいんじゃないかという話が黒須委員からありましたね。</p>
黒須委員	<p>このQRコードをとると、市のホームページの子どもの権利で、連絡先がバースと出てきますよね、警察署とかも含めて全部出てきますよね。だから、悩みのある保護者はこれでいいのでは。</p>
高橋委員長	<p>それはどこかに書いてありましたか。子どもの権利に関する相談窓口。このQRコードで出てくるんだったら、それはそれで私はいいです。順番についても、先ほど説明がありましたので、私は事務局案でもいいかなと思っていますが、皆さん、いかがですか、全体。</p>
古源委員	<p>高橋先生の案もいい気がします。</p>

高橋委員長	<p>そうですか。それでは順番を変えるということで、よろしいですか。事務局。はい、そのほか、全体を通して何かございますでしょうか。</p> <p>黒須委員、どうぞ。</p>
黒須委員	<p>最後のページですけれども、古源委員から、子どもの権利条約が重複しているというのはカットして、QRコードで、全部、子どもの権利に関する条例自体が読めるページに繋ぐのを入れたらどうかと思っています。ご検討いただければと思います。</p>
高橋委員長	<p>いかがでしょう。確かに子どもの権利条例は入れたほうがいいでしょうが、事務局、これは必ず載せなきゃいけないものですか。</p>
田中児童青少年係長	<p>そういうわけではございません。同内容のリンクが下の欄にも入っておりますので、もう一つ別のQRコードを持ってくるということは可能です。</p>
高橋委員長	<p>今の黒須委員の提案でよろしいですかね。そこは黒須委員の提案で進めていきたいと思っています。どうぞ、古源委員。</p>
古源委員	<p>この権利に関する相談窓口（リンク集）、今見たら、全部出るんですけども、リーフレットに大人でも子どもでも相談できますよというようなことを書いていただけたらいいかな、と思いました。今、QRコードは子どももみんな使いますからね。</p>
高橋委員長	<p>子どもも大人も相談できるという、その一文も入れていただくということで。黒須委員、どうぞ。</p>
黒須委員	<p>あと、ちょっと気になったのが、インターネットを全く使っていない家というの、もしあるとしたら、一つぐらいは何か電話番号があってもいいのかな思ったのですが、いかがでしょう。</p>
羽田委員	<p>そういう人への対応は市役所をお願いする形ですか。</p>
黒須委員	<p>そうですね。ネットトラブルが一番怖いものの裏返しで、QRコード、みんな、できるんですよ。</p>
高橋委員長	<p>そうすると、市役所の連絡先が要るんじゃないですか。どうでしょう、今の。</p>
羽田委員	<p>市役所で、必要なところで振り分けみたいな。</p>
高橋委員長	<p>確かにQRコード、インターネットがない方というものもあるかもしれないので、代表で市役所の電話番号か何かを入れておいていただいて、振り分けていただくというご意見がありましたけれども、い</p>

	<p>かがでしょう。</p> <p>事務局に質問ですが、そういう表記の仕方は可能ですか。厳しいですか。</p>
田中児童青少年係長	<p>基本的には市役所内で、全ての内容を取りまとめる一つの窓口というのはないので、ちょっと厳しいかなというのはございます。相談窓口という位置づけでも複数ありますから、どこかの電話番号を記載するという事は可能だと思うんですが、そもそも青少年問題協議会として出すリーフレットなので、どこを選択するのか、1カ所であるがゆえに難しいというところがありますので。</p>
黒須委員	<p>26年には1カ所だけにまとめましょうというので、小金井市子ども家庭支援センターの番号を載せていますよね。</p>
田中児童青少年係長	<p>はい、おっしゃるとおり子ども家庭支援センターを載せていると思います。内容は似ていますので、電話番号1つをそういった形でお載せするという事も可能だと思います。</p>
高橋委員長	<p>内容的には子家センを載せてもおかしくないですか。このリーフレットの内容で、つまり相談で連絡する、子家センで載せた場合。</p>
古源委員	<p>悩みとかはいいけれど、ネットの問題とかだと、ちょっと違ってきちゃうかもしれません。</p>
高橋委員長	<p>難しいですね、これ。でも、今言われたように、例えば本体会議のときに、携帯がない、QRコードが読めない場合、どうすればいいんだと言われたときに、どうすることもできませんというの、ちょっと苦しい。何か1つ、2つでも連絡先が書いてあればよかったんですけども、ただ、この青少年問題協議会の立場としてどこを選ぶんだという話になったときに、それもまた難しいですね。黒須委員、お願いします。</p>
黒須委員	<p>子ども家庭支援センターに電話したときに、子どもがすごくネットをやっていて、親は全然ネット環境がわからなかったときに、親が電話したら、こっちに電話したらいいですよとか、そういう案内というのはどうなのでしょう。</p>
鈴木児童青少年課長	<p>相談の内容が特化しているところもありますが、相談に対して応じられないというものじゃないと思うんですけども、そこだけで丁寧な対応ができるかというところが難しい気がします。</p>

高橋委員長	<p>そもそも、このリーフレットに相談窓口まで載せるのは、内容的に難しいかなという思いは事務局としてはあります。子どもの権利に関するリーフレットを小・中の新1年生全員を通じて配っていますが、その中には相談窓口とかの連絡先は入っているんですよね。そういったものが手元にあるようだったらご活用いただければ、という思いもありますし、より詳しい内容がQRコードで繋がるホームページにも載っているので、限られた誌面で、敢えてまたここでというのは、ちょっとできたらとは思っています。</p> <p>このままいきましょうか、QRコードで。わかりました。以上でよろしいですか。</p> <p>ありがとうございました。とりあえず、全体を皆さんで確認をして、修正案を出せるレベルまで協議ができたのではないかなと思います。</p> <p>本日の議論をもとに、このリーフレットの差し替え等を行った上で、また裏面のメッセージについては、皆様のご発言いただいた内容をもとに、私のほうで記載をして、最終案を完成させたいと思っております。</p> <p>最終案につきましては、2月中には皆様のところにご送付をして、目を通していただいて、3月27日を迎えるということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>長い時間になりましたが、有意義な会議になりました。それでは、第3回専門委員会を閉会いたします。ありがとうございました。</p>
-------	---